

【熊本県賞】

熊本の水 熊本県 真和中学校 2年

まつもと 佳子

私たちが日ごろから全く意識もせずあたりまえの様に使っている水は日常生活にはかせないものです。

私が小学一年生の四月、熊本では震度七の大きな地震が起きました。

電気もガスも止まり、水も止まりました。水が止まると飲み水がない上にトイレに行くことさえできませんでした。

私たちは体を動かすことができる年齢だったので必要なものを必要な所に探しに行くことができました。

しかし、その時に一番困ったのは赤ちゃんのミルク用のお水でした。

私と同じマンションの同じ階に住む方で、当時生後七ヶ月のミルクを必要とする赤ちゃんが住んでいました。この子のお父さんはメディア関係のお仕事をしており地震が起きてすぐに仕事に行かなければならず、お母さんは一人で二才のお兄ちゃんと七ヶ月の赤ちゃんを抱っこして外に避難されていました。サイレンがけたたましく鳴っていたので怖い気持ちもあつたかもしれませんが赤ちゃんはワンワン泣いていました。赤ちゃんのお母さんが、私の母に、「どの部屋も水もガスも止まっていますよね？ミルクのお湯がなくて・・・。」と話してこられました。赤ちゃんはお腹がすいて泣いていました。幸い私の家にカセットコンロとペットボトルがあつたので母がお湯を沸かして赤ちゃんのミルクを準備することができました。

私はこの時、蛇口をひねるとあたり前に出てくる水がなんてありがたい物なんだと気付きました。

私が身近で気付いた地震の影響はそれだけではありません。七年経つた今もなお続いているのです。

先日私の家に浄水器のフィルター交換に業者の方が訪問されました。一年に一回の訪問なのですがその方が「熊本地震前はフィルターに泥のような色が付くこともなかったし、そもそもこんなにフィルターが汚れ

ることもなかったんですよ。あれから七年になりますね。何気に毎日使っている水ですが本当にありがたいですよ。」とお話をされていました。

私は小学生の時に水道局に社会見学に行ったことがあります。そこでは、いろんな努力がなされ家庭に水を送る作業がされていました。水の品質は厳しく管理され、これを維持するには大変な努力と技術を要するのだろうと小学生の私でも見て取れました。

熊本地震の夜、お水が準備できていなかったらきっと赤ちゃんはお腹がすいたままだったし、水道局の方の努力がなければ地震の後の熊本の蛇口から出る水は、今でも透明白水ではなかったかも知れない・・・。

この経験で私の水に対する考えは大きく変わりました。いつもあたり前の様に蛇口をひねれば出てくる水、毎日、飲み水、お風呂、トイレ、洗濯、料理、無くては人間は生きられない、水を大切に思う、使う一人一人のほんの小さな行動でも、積み重ねれば、大きな力になると思います。何気ない日常を支えてくれる熊本の水、それを支えてくださる方々に感謝したいです。

あの地震から七年、泣いていた赤ちゃんもおいしい熊本の水を飲み続けて元気に四月から小学校に通っているのだろうなあ。